

# 第6次大野城市総合計画後期基本計画策定のための 市民満足度アンケート調査報告書

令和5年 11 月

大野城市経営戦略課

## 目次

I	調査概要	1
1	目的	
2	実施期間	
3	調査項目	
4	調査対象者	
5	調査方法	
6	回収結果	
7	分析規則	
8	ウエイトバック集計	
9	留意事項	
II	基礎情報	5
1	性別	
2	年齢	
3	職業	
4	世帯構成	
5	居住地域	
6	居住年数	
7	愛郷心	
8	居留意向	
9	行政サービスのあり方	
10	基礎情報まとめ	
III	分野調査	9
1	地域づくり・自治体経営	
2	子育て・教育	
3	健康長寿・福祉	
4	都市環境・安全安心	
5	総合分析	
IV	クロス分析	23
1	愛郷心	
2	居留意向	
3	総合分析	
V	前回アンケートとの比較	30

## I 調査概要

### 1 目的

第6次大野城市総合計画後期基本計画における施策の策定のために、現在の市の施策に対する市民評価（満足度）と今後の市民意向（重要度・優先度）を把握するもの。

また、前期基本計画策定時からの市民評価（満足度）と市民意向（重要度）の変化を確認するとともに、施策策定の一助にするもの。

### 2 実施期間

令和5年3月20日（月）から令和5年3月31日（金）まで

### 3 調査項目

第6次大野城市総合計画の4つの政策ごとに調査票を作成

A票 地域づくり・自治体経営

B票 子育て・教育

C票 健康長寿・福祉

D票 都市環境・安全安心

### 4 調査対象者

コミュニティごとの人口に着目した層化無作為抽出方式による16歳以上の市民を対象とし、調査票ごとに1,500人、計6,000人を対象とする。

### 5 調査方法

郵送配付・郵送回答・オンライン回答

### 6 回収結果

#### ① 各票回収率

	郵送	オンライン	合計	回収率
A票	430	68	498	33.2%
B票	467	73	540	36.0%
C票	503	69	572	38.1%
D票	439	86	525	35.0%
合計	1,839	296	2,135	35.6%

※アンケートの信用度について

アンケート調査を実施する場合、誤差率は5%未満が望ましいとされている。

母数10万人に対するアンケートの場合、383件以上のサンプル数を確保することで、誤差率は5%未満となる。

本調査では、最も回答数の少ないA票でも498件の回答を得ていることから、当該調査については、信用できるものと言える。

## ② 世代別回収率

	対象人数 (各票)	対象人数 (合計)	対象人数 構成割合	回答数	対象人数 に対する 回答割合	回答総数 に対する 回答割合
10代	72	288	4.8%	71	24.7%	3.3%
20代	196	784	13.1%	157	20.0%	7.4%
30代	244	976	16.3%	260	26.6%	12.2%
40代	298	1,192	19.9%	403	33.8%	18.9%
50代	278	1,112	18.5%	393	35.3%	18.4%
60代	210	840	14.0%	429	51.1%	20.1%
70代以上	202	808	13.4%	411	50.9%	19.2%
無回答	-	-	-	11	-	0.5%
合計	1,500	6,000	100%	2,135	35.6%	100%

## 7 分析規則

市の取組に対して、満足度、重要度、優先度について集計を行い、以下の規則に基づき指標化を行った。なお、小数点第三位を四捨五入している。

### ① 満足度

「満足している」の回答数×5点  
「やや満足している」の回答数×4点  
「普通」の回答数×3点  
「あまり満足していない」の回答数×2点  
「満足していない」の回答数×1点 の合計  


---

「内容を知らない」、「無回答」を除く回答総数

したがって、満足度指標は上限値が5、下限値が1、中間値は3となる。

### ② 重要度

「重要である」の回答数×5点  
「やや重要である」の回答数×4点  
「どちらとも言えない」の回答数×3点  
「あまり重要ではない」の回答数×2点  
「重要ではない」の回答数×1点 の合計  


---

「内容を知らない」、「無回答」を除く回答総数

したがって、重要度指標は上限値が5、下限値が1、中間値は3となる。

### ③ 優先度

「優先である」の回答数×5点  
 「やや優先である」の回答数×4点  
 「どちらとも言えない」の回答数×3点  
 「あまり優先ではない」の回答数×2点  
 「ではない」の回答数×1点 の合計  
 「内容を知らない」、「無回答」を除く回答総数

したがって、優先度指標は上限値が5、下限値が1、中間値は3となる。

## 8 ウェイトバック集計

回答者数の世代構成に偏りがあるため、アンケート調査の母集団の世代構成割合に対して回答者数の世代構成対象割合を母集団の構成通りに集計するウェイトバック集計を用いてアンケートを分析している。

例)

	母集団		回収数		ウェイト値
	対象	対象割合	合計	割合	
10代	288	4.8%	71	3.3%	1.44
20代	784	13.1%	157	7.4%	1.78
30代	976	16.3%	260	12.2%	1.34
40代	1,192	19.9%	403	18.9%	1.05
50代	1,112	18.5%	393	18.4%	1.01
60代	840	14.0%	429	20.1%	0.70
70代以上	808	13.4%	411	19.2%	0.70
無回答	-	-	11	0.5%	-
合計	6,000	100%	2,135	100%	

このままでは、回収数に偏りが生じており、このままのデータで集計を行うと、主に10代・20代の意見があまり反映されないものになる。そこで、回収数の割合を母集団の割合に戻す必要があるため、下記のウェイト値をそれぞれの回答数に掛ける。

#### 【ウェイト値】

母集団と同じ構成比の人数（回収数の合計×母集団の対象割合）÷回収データの人数

例）10代のウェイト値＝2135（人）×4.8（％）÷71（人）＝1.44

このウェイト値をそれぞれの年代で計算し、集計結果に反映することで、母集団の割合と同じ割合で回答があった場合の結果を得ることができる。

母集団における満足度・重要度・優先度の5段階評価回答数＝実際の満足度・重要度・優先度の5段階評価回答数×ウェイト値

## 9 留意事項

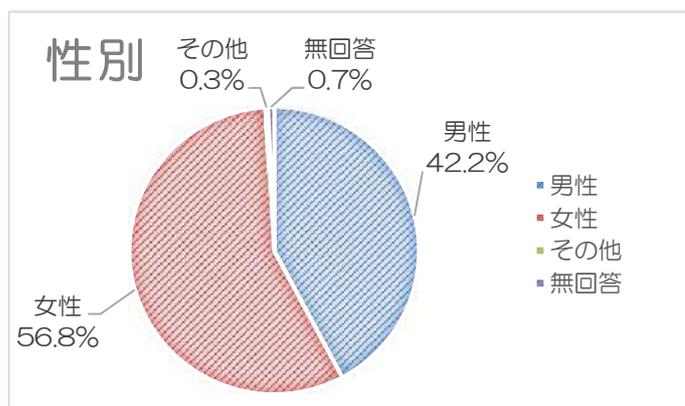
本調査は、市の施策に対する市民評価（満足度）と今後の市民意向（重要度・優先度）を把握するとともに、前期基本計画策定時からの市民評価（満足度）と市民意向（重要度）の変化を確認し、今後の施策策定の一助にすることを目的として実施している。

そのため、本調査の結果のみで、各分野の施策の方向性（施策の重点化や縮小など）を決定するものではないことに留意する必要がある。

## Ⅱ 基礎情報

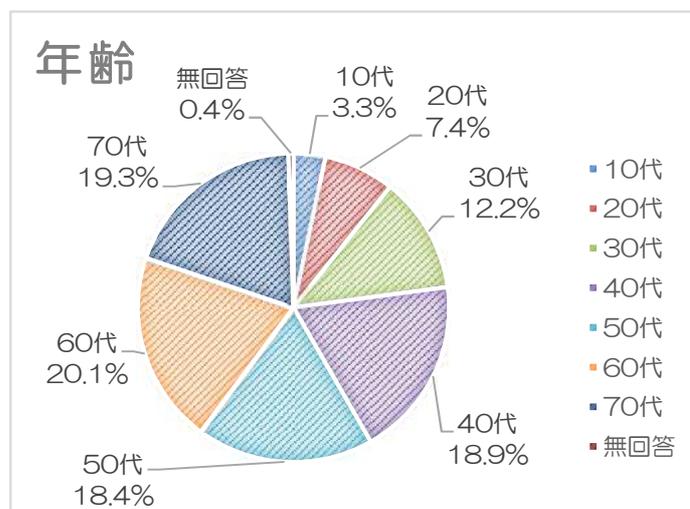
### 1 性別

性別	回答数	割合
男性	901	42.2%
女性	1,213	56.8%
その他	6	0.3%
無回答	15	0.7%
合計	2,135	100%



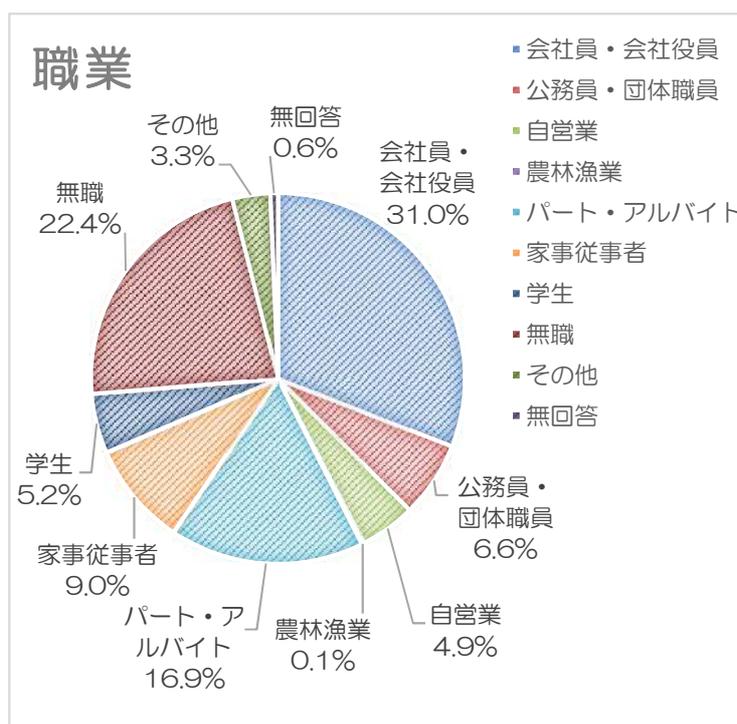
### 2 年齢

年齢	回答数	割合
10代	71	3.3%
20代	157	7.4%
30代	260	12.2%
40代	403	18.9%
50代	393	18.4%
60代	429	20.1%
70代	411	19.3%
無回答	11	0.4%
合計	2,135	100%



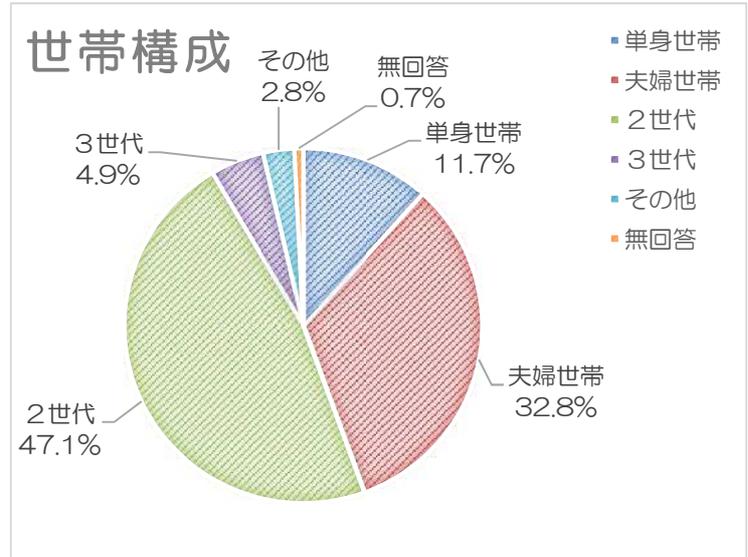
### 3 職業

職業	回答数	割合
会社員 会社役員	661	31.0%
公務員 団体職員	141	6.6%
自営業	104	4.9%
農林漁業	3	0.1%
パート アルバイト	360	16.9%
家事従事者	193	9.0%
学生	111	5.2%
無職	478	22.4%
その他	70	3.3%
無回答	14	0.6%
合計	2,135	100%



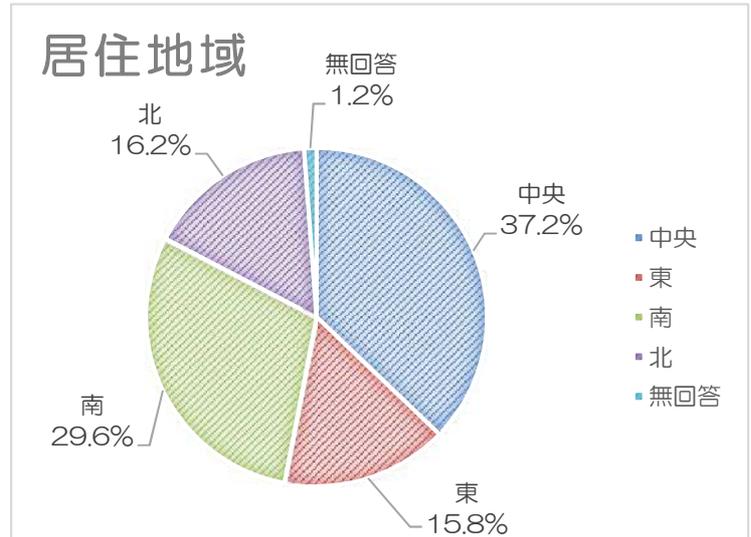
#### 4 世帯構成

世帯構成	回答数	割合
単身世帯	249	11.7%
夫婦世帯	700	32.8%
2世代	1,005	47.1%
3世代	104	4.9%
その他	60	2.8%
無回答	17	0.7%
合計	2,135	100%



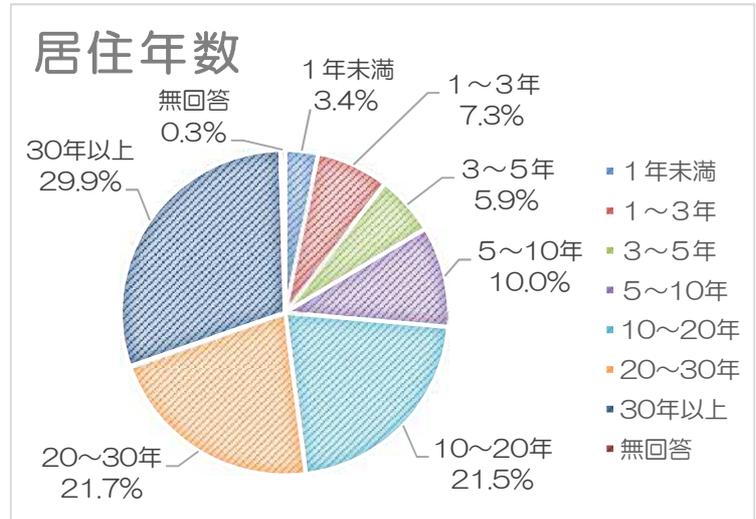
#### 5 居住地域

居住地域	回答数	割合
中央	794	37.2%
東	338	15.8%
南	633	29.6%
北	345	16.2%
無回答	25	1.2%
合計	2,135	100%



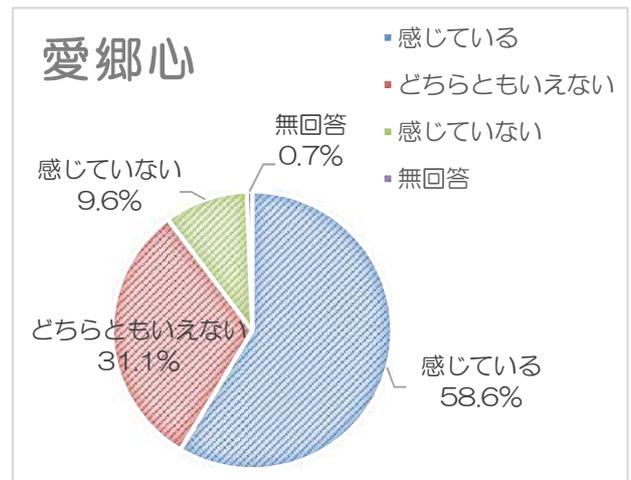
#### 6 居住年数

居住年数	回答数	割合
1年未満	70	3.4%
1～3年	153	7.3%
3～5年	127	5.9%
5～10年	214	10.0%
10～20年	460	21.5%
20～30年	463	21.7%
30年以上	639	29.9%
無回答	9	0.3%
合計	2,135	100%



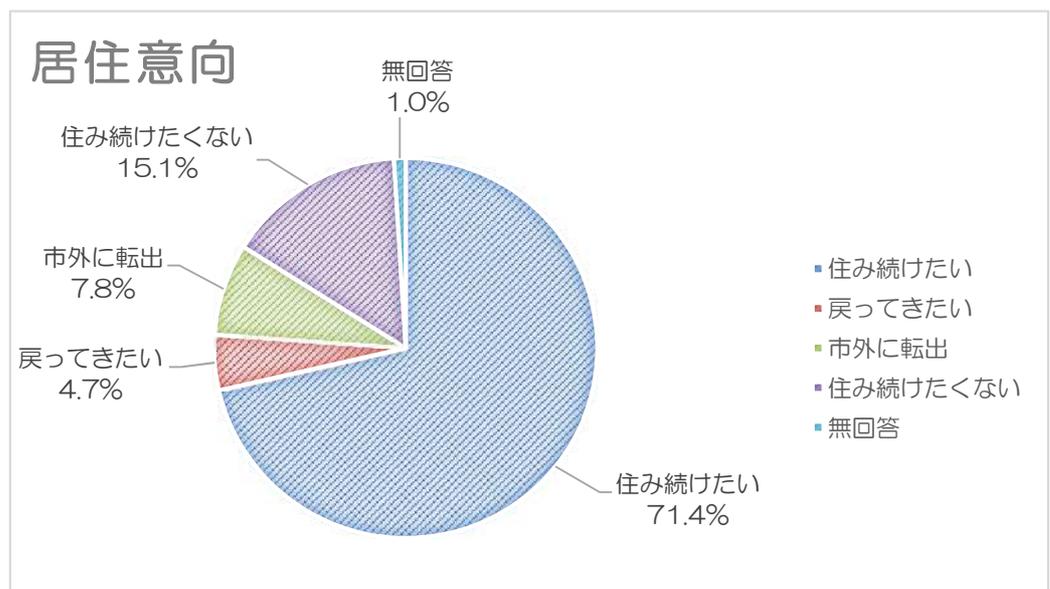
## 7 愛郷心

愛郷心	回答数	割合
感じている	1,251	58.6%
どちらともいえない	665	31.1%
感じていない	206	9.6%
無回答	13	0.7%
合計	2,135	100%



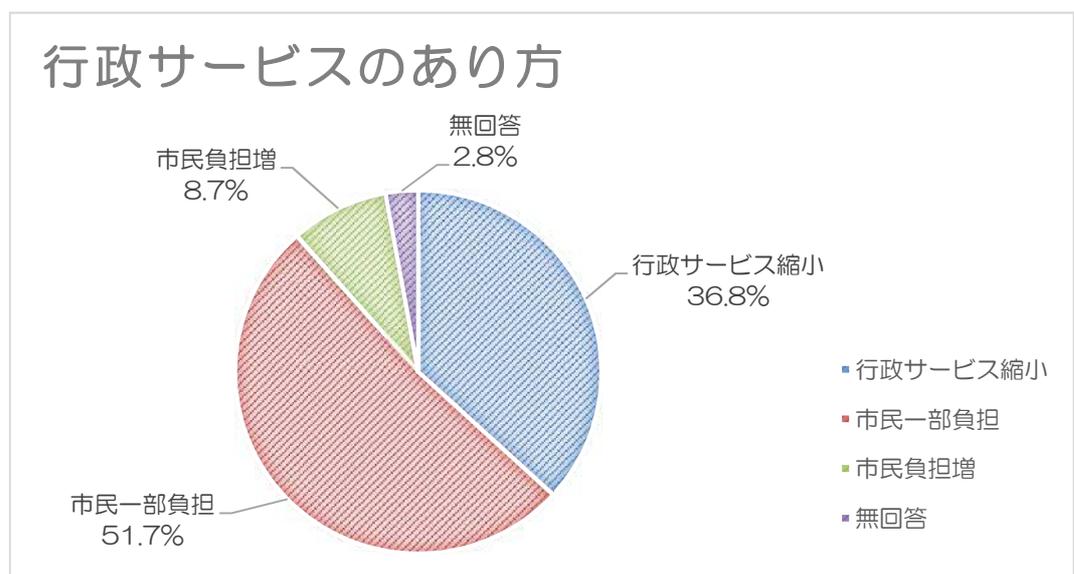
## 8 居留意向

居留意向	回答数	割合
住み続けたい	1,525	71.4%
戻ってきたい (いったん離れるかもしれないが、いずれ戻ってきたい)	100	4.7%
市外に転出 (離れたくないが、市外へ転出することになると思う)	167	7.8%
住み続けたくない	322	15.1%
無回答	21	1.0%
合計	2,135	100%



## 9 行政サービスのあり方

行政サービスのあり方	回答数	割合
行政サービス縮小 (財政規模に伴い、行政サービス縮小)	786	36.8%
市民一部負担 (市民が行政サービスを一部担って、水準維持)	1,103	51.7%
市民負担増 (市民の金銭負担により水準維持)	185	8.7%
無回答	61	2.8%
合計	2,135	100%



## 10 基礎情報まとめ

愛郷心については、大野城市を自分のふるさとして愛着を「感じている」割合が最も多く、約6割いる。

居留意向については、大野城市に「ずっと住みたい」割合が最も多く、7割を超える。一方で、「住みたいくない」と回答した割合は15.1%で、2番目に多い意見であった。

将来的に人口が減少し、市の財政が縮小した場合の行政サービスのあり方としては、「市民が行政サービスを一部担って、水準維持」が最も多く、5割を超える。

### Ⅲ 分野調査

#### 1 地域づくり・自治体経営

1) コミュニティ活動		満足度	重要度	優先度
1	共働のまちづくりの仕組みづくり	3.02	3.66	3.48
2	共働のまちづくりの啓発	2.98	3.36	3.30
3	自助のための支援体制の充実	2.86	3.35	3.28
4	地域活動等に対する支援の充実	3.31	3.35	3.30
5	市民の公益活動を支える仕組みづくり	2.87	3.34	3.25
6	市民参加によるイベントの実施	3.63	3.52	3.39
7	地域活動拠点の整備・機能強化	3.40	3.69	3.58
8	行政センターと地域の連携	3.25	3.55	3.48

「自助のための支援体制の充実」、「市民の公益活動を支える仕組みづくり」の満足度が低い結果となった。

少子高齢化や地域コミュニティの希薄化、若い世代におけるコミュニティ活動への参加の減少により、将来の地域活動の担い手不足が懸念されており、地域の担い手不足解消のための取組や、地域団体、NPO、企業、学校などのコミュニティを形成する各団体との連携を進めていく必要がある。

2) 産業の振興		満足度	重要度	優先度
1	商店街の振興	2.89	3.51	3.46
2	中小企業の経営安定化	2.88	3.12	3.08
3	商工業の振興	2.74	3.28	3.19
4	農地の保全と活用	2.95	3.20	3.17
5	地元農産物の消費促進	3.14	3.57	3.55
6	商品開発と普及	2.93	3.24	3.16
7	食文化の継承	3.00	3.24	3.16

産業の振興については、ほとんどの項目で満足度が低い結果となっている。

生産年齢人口の減少が見込まれるため、雇用と経済の観点から地場企業への支援策や創業支援が求められている。

また、農家と農地が減少しており、地元農家への支援を進めるとともに、都市農地の保全や利用の最適化などを図る必要がある。

3) まちの魅力向上と発信		満足度	重要度	優先度
1	地域資源を活用したまちの魅力向上	3.25	3.43	3.32
2	観光の振興	3.01	3.14	3.20
3	ふるさと納税寄附金の活用	2.64	3.36	3.29
4	情報媒体とマスコミを活用した魅力発信	2.83	3.31	3.23
<p>「ふるさと納税寄附金の活用」や「情報媒体とマスコミを活用した魅力発信」の満足度が低い結果となった。</p> <p>少子高齢化や人口減少が進むなか、市の魅力や知名度をさらに向上させ、定住・交流・関係人口を増加することが求められている。</p> <p>また、市民が必要とする情報や市の魅力を伝えるための情報発信や、歴史や文化などを活用したふるさと意識の醸成を推進する必要がある。</p>				

4) ふるさと意識・文化財		満足度	重要度	優先度
1	文化財の保存	2.95	3.12	3.00
2	文化財の活用	3.29	3.37	3.24
3	ふるさと意識の醸成	3.17	3.35	3.27
4	文化の継承	3.11	3.24	3.17
<p>ふるさと意識・文化財については、おおむね高い満足度である。</p> <p>心のふるさと館が開館し、令和5年度で5周年となり、来館者数は40万人に達した。引き続き、市民に親しまれる館となるように、様々なニーズに対応する魅力ある展示づくりに取り組む必要がある。</p> <p>また、歴史や文化財などの地域資源の活用を進めることにより、「ふるさと大野城」の魅力発信や、にぎわいづくりを進める必要がある。</p>				

5) 芸術文化		満足度	重要度	優先度
1	生涯学習の環境整備と情報提供	3.07	3.50	3.40
2	芸術文化活動の推進	3.29	3.32	3.25
3	芸術文化活動の情報発信	3.26	3.29	3.21
4	芸術文化振興イベントへの支援	3.14	3.23	3.14
5	外国人が暮らしやすい環境づくり	3.05	3.37	3.31
6	国際交流の機会提供	2.80	3.22	3.16
<p>芸術文化については、「国際交流の機会提供」の満足度が低いものの、その他の項目については、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>仕事以外の楽しみや仲間を作ることで、今後の人生を豊かにすることにつながるため、自分にあった生涯学習を始める機会を創出することが求められている。</p> <p>また、芸術文化に触れる機会を創出するとともに、芸術文化を支える人材の育成につなげていく必要がある。</p>				

6) 人権・男女共同参画		満足度	重要度	優先度
1	人権教育・啓発	2.99	3.59	3.57
2	男女共同参画の啓発	2.98	3.47	3.43
3	女性リーダーの育成	2.86	3.48	3.42
4	男女共同参画活動団体への支援	2.96	3.31	3.27
5	DV防止	2.96	3.76	3.73
<p>人権・男女共同参画については、全体的に満足度が低い結果になっている。</p> <p>インターネットやSNSの普及とともに差別書き込みや誹謗中傷などが多発する中で、市民が人権に関する正しい知識や感覚を身に付けることができるよう啓発を進めていく必要がある。</p> <p>また、固定的な性別役割分担意識を解消し、男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めていく必要がある。</p>				

7) 自治体経営		満足度	重要度	優先度
1	行政評価を踏まえた改善	2.91	3.57	3.50
2	市役所組織の見直し	2.89	3.74	3.68
3	自治体間連携・交流	2.93	3.48	3.42
4	職員の能力開発及び資質向上	3.01	3.57	3.56
5	健全な財政運営	3.11	3.97	3.91
6	入札や契約手続の公正性等の確保	2.96	3.65	3.58
7	適正かつ公平な課税の実施	2.90	3.85	3.83
<p>「市役所組織の見直し」や「適正かつ公正な課税の実施」の満足度が低い結果になっている。</p> <p>地方分権の進展により、市が担う役割や責任が拡大していることから、法令遵守を徹底し、公平公正かつ柔軟な行政運営の推進が求められている。</p> <p>また、適切な市民ニーズの把握と分析を行い、市民満足度を向上させるために必要な事業を推進する組織づくりや人材育成が必要とされている。</p>				

8) デジタル活用		満足度	重要度	優先度
1	行政手続きやサービスのオンライン化	2.91	3.57	3.50
2	デジタル技術を活用した行政サービスの提供	2.89	3.74	3.68
<p>デジタル活用については、全体的に満足度が低い結果になっている。</p> <p>デジタル技術の進展により、自治体が担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用し、住民の利便性を図ることが求められている。</p> <p>また、デジタル技術やAI等の活用により、業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくことが求められている。</p>				

9) 情報公開・市民参画		満足度	重要度	優先度
1	行政情報の公開と個人情報の保護	3.13	3.86	3.79
2	市民が市政に関わる機会の充実	3.09	3.35	3.29
3	選挙に対する関心や理解向上ための啓発	2.84	3.48	3.41
4	市議会からの情報提供	2.84	3.34	3.28
5	議場等設備の充実	2.99	2.96	2.93
<p>「選挙に対する関心や理解向上ための啓発」や「市議会からの情報提供」の満足度が低い結果となっている。</p> <p>市政運営に市民の意見を取り入れるために情報公開・広聴機能の充実を図るとともに、市民に開かれた議会となるため市民にわかりやすい情報発信を行う必要がある。</p>				

10) 公共施設管理		満足度	重要度	優先度
1	効率的な公共施設の運営や維持管理	3.00	3.52	3.46
2	公共施設等の長寿命化と事業費の平準化	2.92	3.78	3.76
3	公共施設の適正配置	2.97	3.46	3.40
<p>公共施設管理の満足度は、どの項目も平均的な結果となっている。</p> <p>公共施設の毎年度の自主点検等により、劣化状況の把握や計画の調整を行うことで、利用者が使いやすく安全な施設の提供に努めている。</p> <p>老朽施設の増大に伴い今後さらなる財政負担が生じることが予想されることから、保有する施設総量の適正化等による施設の更新費用の削減が求められる。</p> <p>今後迎える施設の大量更新等により更なる財政負担も見込まれることから、引き続き計画的な改修を進めながら、保有する施設総量の適正化等についても検討していく必要がある。</p>				

11) 窓口サービス		満足度	重要度	優先度
1	窓口サービスの充実	3.31	3.78	3.78
2	納入窓口の充実	3.29	3.69	3.66
<p>窓口サービスについては、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>多様化する市民ニーズを適切に把握し、それに対応した窓口サービスの提供が求められている。</p> <p>「まどかフロア」による丁寧で迅速な窓口サービスの向上に加え、窓口のデジタル化を積極的に進めるなど市民サービスの向上を図っていく必要がある。</p>				

## 2 子育て・教育

1) 子育て支援		満足度	重要度	優先度
1	妊娠・子育てに関する相談体制の充実	3.28	3.95	3.83
2	地域と連携した子育て支援	3.36	3.69	3.63
3	子育て支援施設の充実	3.16	3.61	3.57
4	子育ての経済的支援	3.00	4.17	4.13
5	待機児童の解消	2.98	3.95	3.91
6	児童虐待などに関する相談体制の充実	3.06	3.99	3.96
7	子育て支援の情報提供の充実	3.07	3.76	3.68

子育て支援については、おおむね高い満足度となっている。

現在、妊娠や出産に対する価値観の多様化や、人と人との関わりの希薄化や核家族の増加により、子育てに対する不安や孤立を感じる人が増加している。

また、子育てに対する経済的な不安を抱える人も多く、医療費助成・児童手当・児童扶養手当等の経済的支援のニーズも高まっている。

今後も、多様な支援ニーズがある家庭に寄り添うため、関係機関が連携し、妊娠期から切れ目のない支援体制や家庭環境に合わせた伴走型支援の整備が求められている。

2) 子ども・若者の健全育成		満足度	重要度	優先度
1	子どもの生活や学習環境の提供	3.04	3.61	3.57
2	子どもの食育の推進	3.04	3.72	3.66
3	青少年の地域参加等への支援	3.03	3.33	3.24
4	青少年の非行対策やモラル向上	3.21	3.61	3.53

子ども・若者の健全育成については、全ての項目でおおむね高い満足度となっている。

学校や家庭以外で、青少年が自分の居場所だと感じることができ、地域や社会とつながることができる場所が求められている。

また、青少年の自立や規範意識の醸成、地域の担い手やリーダーとなる青少年の育成が求められており、交流・相談の場の充実や青少年のコミュニティ活動への参加を促進する必要がある。

3) 教育政策		満足度	重要度	優先度
1	就学困難な子どもへの支援	2.80	3.94	3.90
2	学校規模の適正化	2.82	3.41	3.37
3	学校施設の計画的改修	2.91	3.45	3.42
<p>教育政策については、全体的に満足度が低い結果となっている。</p> <p>学校保健や小中学校給食の充実、就学援助等の支援を行い、児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を維持していく必要がある。</p> <p>また、公共施設の毎年度の自主点検等により、劣化状況の把握や計画の調整を行うことで、利用者が使いやすく安全な施設の提供に努めている。</p>				

4) 学校教育		満足度	重要度	優先度
1	学力向上支援	2.99	3.81	3.77
2	学校独自の教育活動	3.17	3.30	3.23
3	外国語教育や国際理解教育	2.80	3.70	3.68
4	いじめ対策	2.89	4.07	4.04
5	不登校支援	2.72	3.91	3.85
6	インクルーシブ教育	2.94	3.70	3.65
7	学校情報基盤の整備	3.01	3.72	3.65
8	学校情報の発信	3.13	3.43	3.39
9	子どもたちの安全の確保	3.22	4.00	3.91
<p>「外国語教育や国際理解教育」・「いじめ対策」・「不登校支援」などの項目が低い満足度となっている。</p> <p>近年、特別支援学級や通級指導教室、不登校の児童生徒が増加傾向にある。また、インターネット上のいじめ（SNS等）の急増や、学校復帰だけを目的としない価値観の多様化など、子どもたちを取り巻く環境は変化している。</p> <p>様々な事情の子どもたちを支援し、教育から遠ざかることのないよう支援体制を整備する必要がある。</p>				

5) 社会教育		満足度	重要度	優先度
1	放課後の児童の居場所づくり	3.29	3.80	3.72
2	開かれた学校づくり	3.12	3.48	3.45
3	家庭の教育力向上	3.03	2.98	2.91
4	子どもの読書環境の充実	3.33	3.50	3.38
<p>社会教育については、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>共働き世帯の増加や孤立育児の防止の観点から、こどもが気軽に立ち寄り、地域の人や、こども同士で過ごせる「居場所づくり」が求められており、こどもの心身の健全育成のために交流や体験の機会を増やす必要がある。</p>				

6) スポーツ		満足度	重要度	優先度
1	生涯スポーツの推進	3.01	3.26	3.20
2	スポーツ団体等への支援	3.02	3.26	3.19
3	スポーツ施設の計画的な改修	3.06	3.37	3.30
4	市民参加による競技大会の実施	3.29	2.98	2.90
<p>スポーツについては、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>仕事や家庭で忙しく、時間が取れない人が多くいるが、仕事や家庭以外にも楽しみや仲間を作ることで、今後の人生を豊かにすることにつながるため、スポーツに触れる機会を創出することが求められている。</p>				

### 3 健康長寿・福祉

1) 健康		満足度	重要度	優先度
1	各種健診の周知啓発や実施	3.39	3.83	3.71
2	こころの健康づくりの推進	2.83	3.36	3.24
3	健康的食生活の情報提供や支援	3.02	3.21	3.14
4	生活習慣改善の保健指導や相談	3.09	3.22	3.13
5	生活習慣病重症化予防の保健指導	3.01	3.21	3.16
6	医療費適正化の啓発	3.05	3.18	3.14

「各種健診の周知啓発や実施」は満足度が高く、「こころの健康づくりの推進」は満足度が低い結果となっている。

特定健診・後期高齢者健診の受診率向上や、保健指導・健康教育等の更なる充実など、健康維持・増進や介護予防につながる健康づくりの各種取組を通じて、病気の発症や身体機能低下の予防、重症化予防を推進していく必要がある。

また、高齢化の進行や医療の高度化などにより、医療費などの社会保障費は増加傾向にあり、引き続き、医療保険の適切な運営やサービスの適正化を進めていく必要がある。

2) 高齢者支援		満足度	重要度	優先度
1	高齢者の学びの場や機会の充実	3.18	3.28	3.17
2	高齢者の就労機会等の充実	3.00	3.36	3.29
3	高齢者の見守り体制の充実	3.04	3.54	3.49
4	在宅医療の充実	2.96	3.56	3.51
5	高齢者の食生活支援	2.88	3.33	3.26

「高齢者の学びの場や機会の充実」の満足度が高い結果となっている。

高齢者が自分らしく生きがいのある生活を送ることができるよう、生きがいづくりと社会参加の場づくりが求められている。

今後も、学びの場やスポーツ、芸術文化、ボランティア活動など高齢者が活躍できる機会を創出し、高齢者の生きがいづくりの取組や高齢者が地域社会に参画しやすい環境づくりを進める必要がある。

3) 介護予防・介護保険		満足度	重要度	優先度
1	介護予防の充実	3.07	3.35	3.28
2	認知症対策	2.88	3.44	3.39
3	高齢者施設の整備	2.86	3.39	3.35
4	介護保険事業の適正運営	2.88	3.44	3.40

介護予防・介護保険については、複数の項目で満足度が低い結果となっている。

一人暮らしの高齢者や認知症のある高齢者が増加しており、高齢者の相談窓口となる地域包括支援センターの支援体制の充実を図り、住み慣れた地域で安心した生活が継続できるよう、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進に取り組む必要がある。

また、介護を必要とする高齢者に確実なサービスの提供と円滑な保険給付を継続するために、介護保険の適切な運営や介護給付の適正化を進める必要がある。

4) 障がい・地域福祉		満足度	重要度	優先度
1	障がい者の生活支援	2.96	3.61	3.57
2	障がい者の社会参加支援	2.91	3.53	3.50
3	障がい者の就労支援	2.81	3.53	3.49
4	障がい者福祉に対する普及啓発	2.94	3.39	3.34
5	福祉活動ボランティアの促進	2.89	3.29	3.24
6	生活困窮者の自立支援	2.90	3.32	3.29

障がい・地域福祉については、全体的に満足度が低い結果になっている。

少子高齢化、ライフスタイルの多様化等を背景に、老老介護、ダブルケア、8050問題、ヤングケアラー、ひきこもりなど、既存の枠組みによる支援だけでは対応しきれない、生活課題の多様化・複雑化、制度の狭間の問題の顕在化がみられる。

地域住民や民間団体、行政が互いに協力して、それらの問題に対応する取組を進めていく必要がある。

#### 4 都市環境・安全安心

1) 都市計画		満足度	重要度	優先度
1	まちづくりの規制と適切運用	3.22	3.70	3.51
2	個性や魅力を生み出す地区形成	3.11	3.46	3.32
3	都市基盤の計画的整備	3.29	3.97	3.88
4	公共交通空白地の解消	3.07	3.73	3.66
5	中心市街地の活性化	3.35	3.96	3.86
6	自転車利用者への環境整備	3.03	3.61	3.52
7	バリアフリーに配慮した公共施設の整備	3.13	3.80	3.70

都市計画については、全ての項目が、おおむね高い満足度となっている。  
西鉄天神大牟田線の高架切替が完了したことにより、踏切遮断による交通渋滞の緩和と踏切事故の解消が実現した。  
今後は、人口減少や少子高齢化の進展を見据えた、都市機能・居住機能の集約化や公共交通ネットワーク再編に取り組む必要がある。  
また、激甚化する自然災害への適応や、高架下や未利用地等を活用した魅力的でにぎわいのある都市空間の創出を進めて行く必要がある。

2) 道路・公園管理		満足度	重要度	優先度
1	幹線道路の整備	3.05	3.83	3.76
2	橋や道路等の計画的な修繕・補修	3.09	3.59	3.58
3	道路や公園の省エネ化	3.11	3.40	3.35
4	地域ニーズによる公園整備	3.02	3.45	3.35
5	都市における緑の保全と緑化	3.21	3.21	3.09
6	緑化スペースの整備と適正な維持管理	3.13	3.27	3.19

道路・公園管理については、全ての項目で満足度が平均以上となっている。  
近年、気候変動に伴う自然災害が頻発化し、さらに激甚化している。また、多くのインフラが整備されてから50年以上が経過しており、老朽化が進んでいる。  
一方で、「地域の守り手」である建設業への就業者数は減少しており、人件費・建設資材等の物価高騰の中、頻発化・激甚化している自然災害への対策や既存インフラの維持や更新をいかに持続的・効率的に行うかが課題となっている。

3) 循環型社会		満足度	重要度	優先度
1	省エネ・エコ行動の推進	3.12	3.49	3.48
2	市民参加型の環境美化活動	3.23	3.15	3.13
3	ごみ減量対策	3.21	3.46	3.41
4	資源リサイクル	3.45	3.68	3.61
5	ごみ処理施設の計画的施設整備	3.40	3.61	3.54
6	自然環境の保全・再生	3.18	3.52	3.44
7	二酸化炭素削減の推進	3.02	3.37	3.31
8	脱炭素促進の啓発活動	2.92	3.26	3.20
<p>「脱炭素促進の啓発活動」の満足度が低い結果となっているが、他の項目については、おおむね高い満足度である。</p> <p>今後、ゼロカーボンの達成に向けて、市民・事業者・行政が一体となって総ぐるみで脱炭素行動に取り組む必要がある。</p> <p>また、ライフスタイルや社会動向の変化に応じた生活環境保全のため、公衆衛生の向上に向けた取組や、ごみの減量・リサイクルを推進する必要がある。</p>				

4) 上下水道		満足度	重要度	優先度
1	健全な上下水道事業の運営	3.42	3.82	3.73
2	水源確保	3.34	4.05	3.98
3	安全な水の供給	3.64	4.20	4.16
4	浄水場や管路などの計画的な更新	3.08	3.74	3.69
5	水路の計画的な整備	3.04	3.73	3.69
6	災害に強い上下水道施設の推進	3.20	4.02	3.97
7	整備水準を超える降雨対策	3.19	3.98	3.91
8	適正な上下水道料金の維持	2.91	3.83	3.75
9	上下水道に関する情報発信	2.92	3.10	3.05
<p>「適正な上下水道料金の維持」や「上下水道に関する情報発信」の満足度が低い結果となっているが、他の項目は、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>上下水道事業を取り巻く経営環境は、今後の人口減少などに伴う水需要の減少により、事業の根幹をなす料金収入の減少が見込まれる。</p> <p>また、施設の老朽化に伴う更新費用の増大、大規模地震や異常気象による自然災害への対応、多様化するお客様ニーズに応じた良質なサービスの提供など、様々な課題に直面しており、より一層の経営の効率化、安定化を図る必要がある。</p>				

5) 生活安全		満足度	重要度	優先度
1	防災・防犯機関等との連携	3.25	3.79	3.73
2	警察と連携した総合的な防犯対策	3.12	3.96	3.92
3	木造戸建住宅の耐震化促進	2.89	3.43	3.34
4	空き家対策	2.85	3.64	3.50
5	防犯意識向上の啓発	3.02	3.64	3.57
6	交通安全対策	3.00	3.86	3.87
7	飲酒運転撲滅の啓発	3.13	3.86	3.74
8	消費者相談	3.60	3.41	3.34
9	消費者トラブルの未然防止	3.04	3.31	3.26
<p>「木造戸建住宅の耐震化促進」や「空き家対策」の満足度は低い結果となっているが、他の項目については、おおむね高い満足度となっている。</p> <p>市内の刑法犯認知件数や交通事故件数は、地域防犯パトロールや街頭啓発等により減少しており、継続した防犯啓発活動が求められている。</p>				

6) 危機管理		満足度	重要度	優先度
1	防災意識向上の啓発	3.21	3.54	3.48
2	公共施設の避難所機能強化	3.11	3.84	3.78
3	避難行動要支援者への支援	3.10	3.80	3.76
4	災害時相互応援協定の締結	3.04	3.65	3.55
5	被災地への支援活動	3.23	3.65	3.58
6	感染症等の蔓延防止	3.40	3.73	3.70
7	消防防災体制の充実	3.17	3.55	3.48
8	消防団等への支援	3.07	3.12	3.09
<p>危機管理については、全ての項目で満足度が、平均以上となっている。</p> <p>災害時に、誰一人取り残さないために、広域連携や人材育成などの危機管理体制の強化に加え、緊急情報伝達手段の多重化やデジタル技術を用いた災害対応の迅速・効率化等を進める必要がある。また、地域防災力強化のための、防災訓練等への若年層の参加が課題となっている。</p>				

## 5 総合分析

### 1) 地域づくり・自治体経営

「市民参加によるイベントの実施」や「地域活動拠点の整備・機能強化」など、コミュニティ活動に関する満足度が高い結果となった。

これは、昨年度実施した「市制施行 50 周年記念事業」に伴い、様々なイベントが開催されたことが大きく影響していると考えられる。

一方で、人権・男女共同参画等の満足度は、低い値となっている。今後も引き続き、多様な性に対する理解や、社会の変化等に伴う新たな人権課題への対応も含めた取組が求められている。

### 2) 子育て・教育

全体的に重要度・優先度が高く、中でも「子育ての経済的支援」や「いじめ対策」、「子どもたちの安全の確保」などが高く、市民の注目度が高い結果となった。

現在、全国的に「こども家庭庁の新設」や「異次元の少子化対策」が話題になっており、今まで以上に注目度が増す分野であるため、本市においても国と歩調を合わせた効果的な事業が実施できるよう、常に状況を注視し、施策を展開していく必要がある。

### 3) 健康長寿・福祉

「介護予防・介護保険」や「障がい・地域福祉」など、全体的に満足度が低い結果となっており、これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きいと考えられる。

地域住民がお互いに助け合い、支え合う地域福祉においては、交流の場が必要だが、ここ数年はそのような場を設けることが難しい状況であった。

現在、感染症拡大による影響は、少なくなってきており、コロナ禍前の日常が戻ってきているため、今後、必要な支援施策を展開し、誰もが安心してすこやかに暮らすことができるまちづくりを目指す必要がある。

### 4) 都市環境・安全安心

全体的に高い数値となっており、なかでも、上下水道分野の「災害に強い上下水道施設の推進」や「整備水準を超える降雨対策」、生活安全分野の「防災・防犯機関等との連携」など各分野における災害対応に関する項目の満足度や重要度、優先度が、おおむね高い結果となった。

近年は、全国各地で豪雨災害が頻発しているが、福岡県では、大雨特別警報の運用開始後の発表回数が6回、発表後の特別警報継続時間が5,924分といずれも全国で最も多い状況である。

このような状況から、市民の災害対策に関する意識も高くなっており、今回の結果に繋がっていると考えられるため、防災・減災に関する施策を今後も展開していく必要がある。

## Ⅳ クロス分析

### 1 愛郷心

#### 1) 愛郷心×年齢

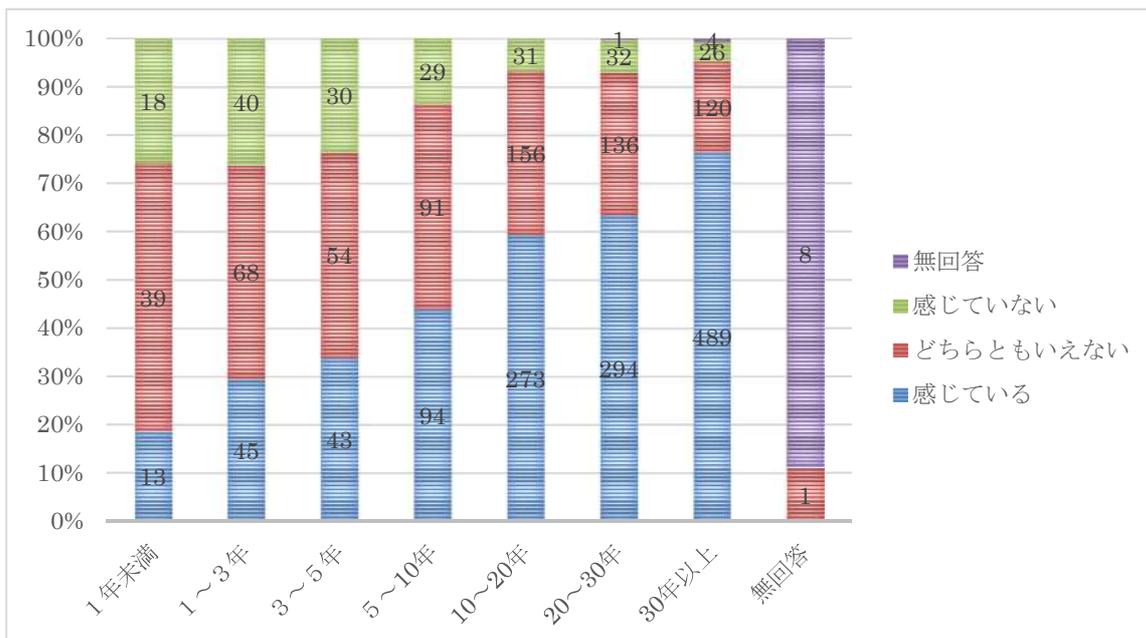
大野城市を自分のふるさととして愛着を「感じている」割合は、「10代」から徐々に減少し、「30代」で最も低くなり、以後年代が上がるとおおむね増加していく。



#### 2) 愛郷心×居住年数

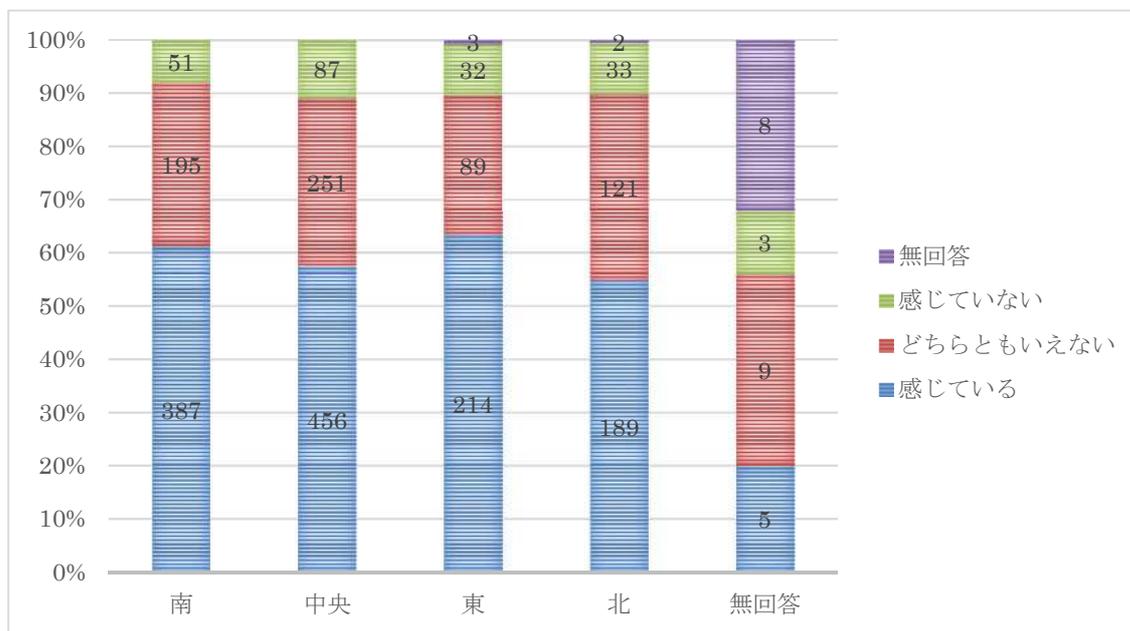
大野城市を自分のふるさととして愛着を「感じている」割合は、居住年数に比例して増加する。

「30代」は、転入転出が多く、居住年数が短くなるため、大野城市を自分のふるさととして愛着を「感じている」割合が低くなっていることが推測できる。



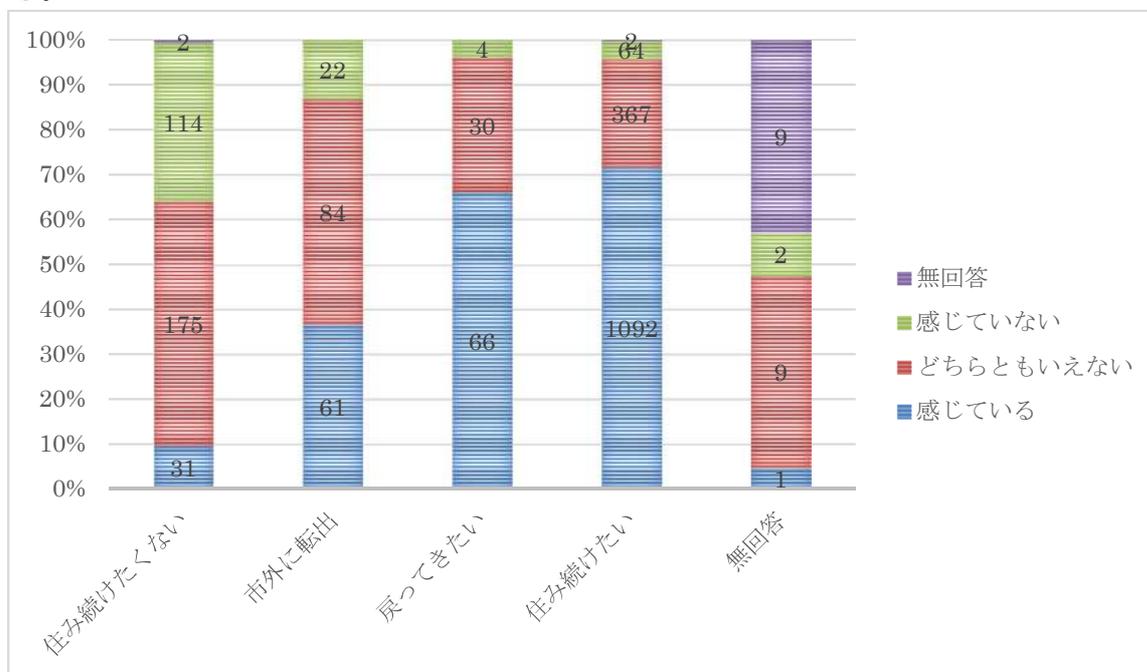
### 3) 愛郷心×コミュニティ

大野城市を自分のふるさととして愛着を「感じている」割合は、「南」と「東」が高く、「どちらともいえない」割合は、「中央」と「北」が高い。



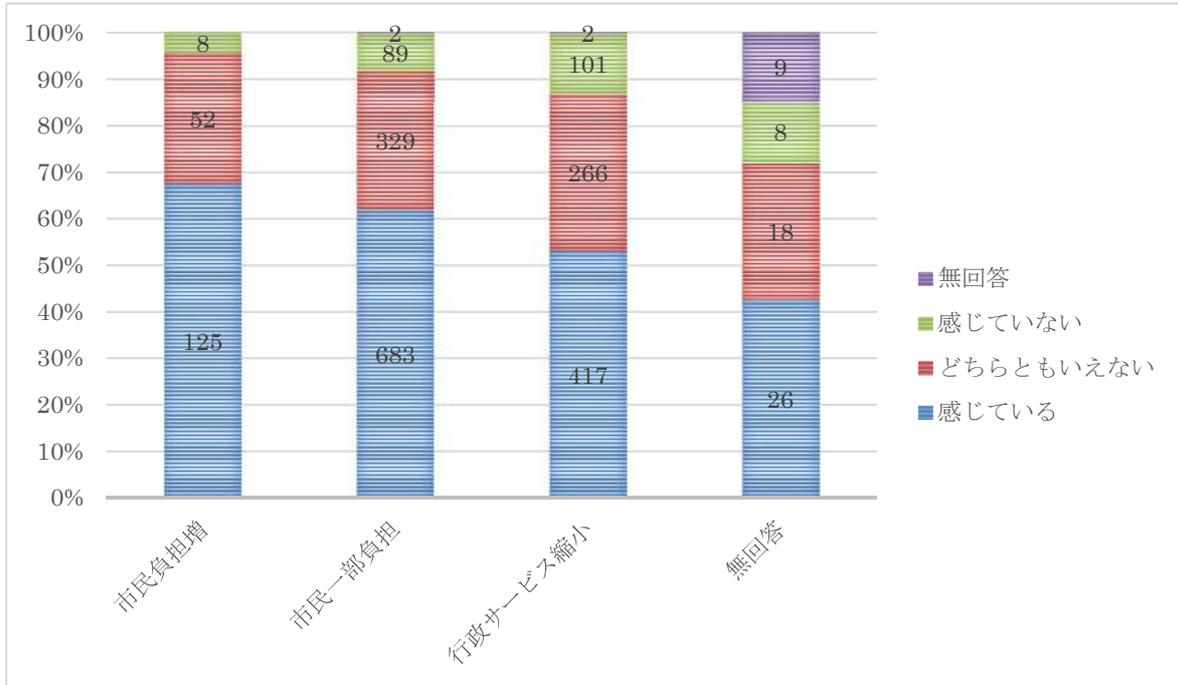
### 4) 愛郷心×居留意向

大野城市を自分のふるさととして愛着を「感じている」割合は、居留意向と比例する。



5) 愛郷心×行政サービスのあり方

大野城市に自分のふるさととして愛着を「感じている」割合は、行政サービスのあり方について、「市民負担増になっても、同程度のサービスを維持する」が最も多く、「行政サービスを縮小する」が最も少ない。



## 2 居留意向

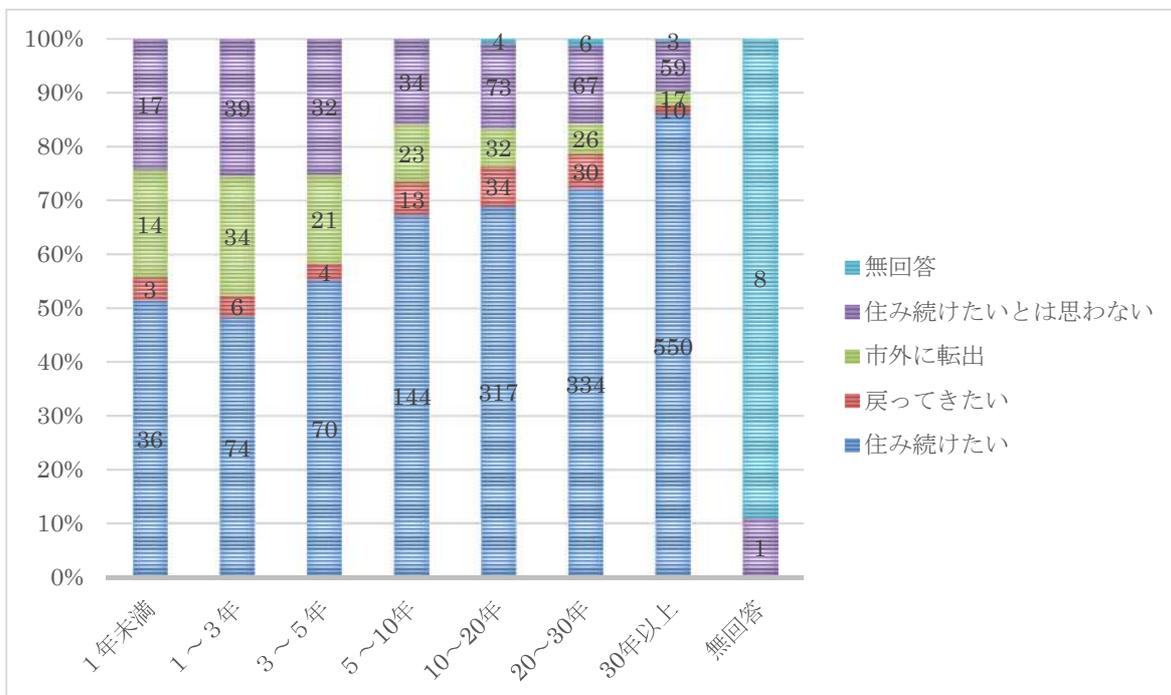
### 1) 居留意向×年齢

大野城市に「住み続けたい」と思う割合は、「30代」以降に多い。



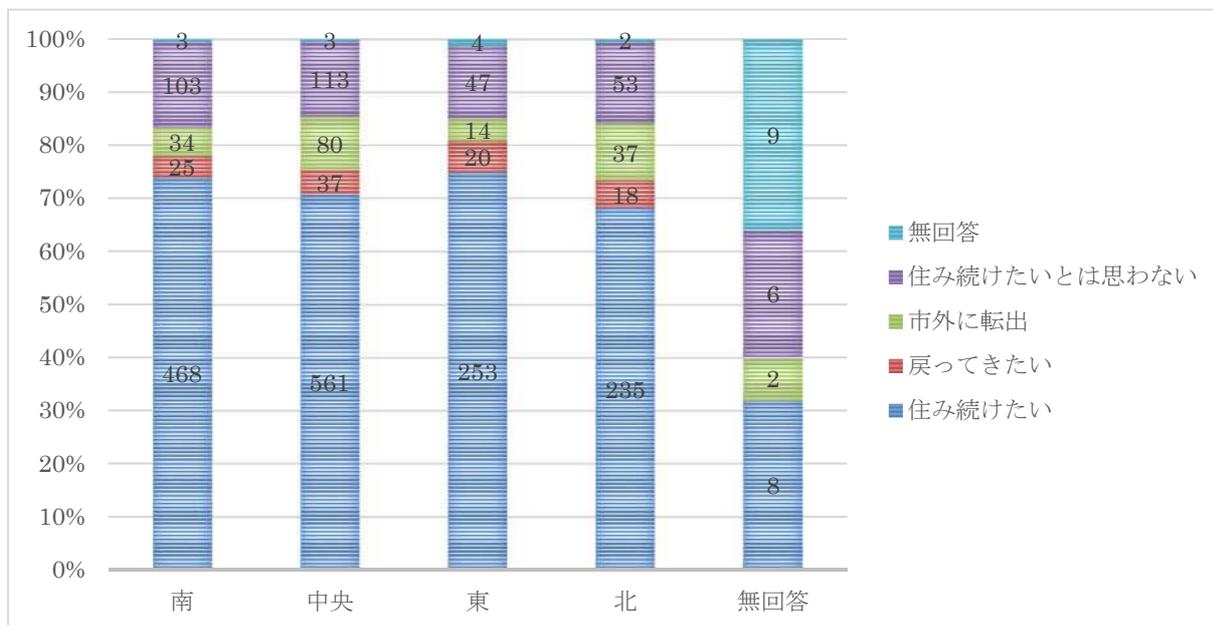
### 2) 居留意向×居住年数

大野城市に「住み続けたい」と思う割合は、居住年数が「5年以上」に多い。



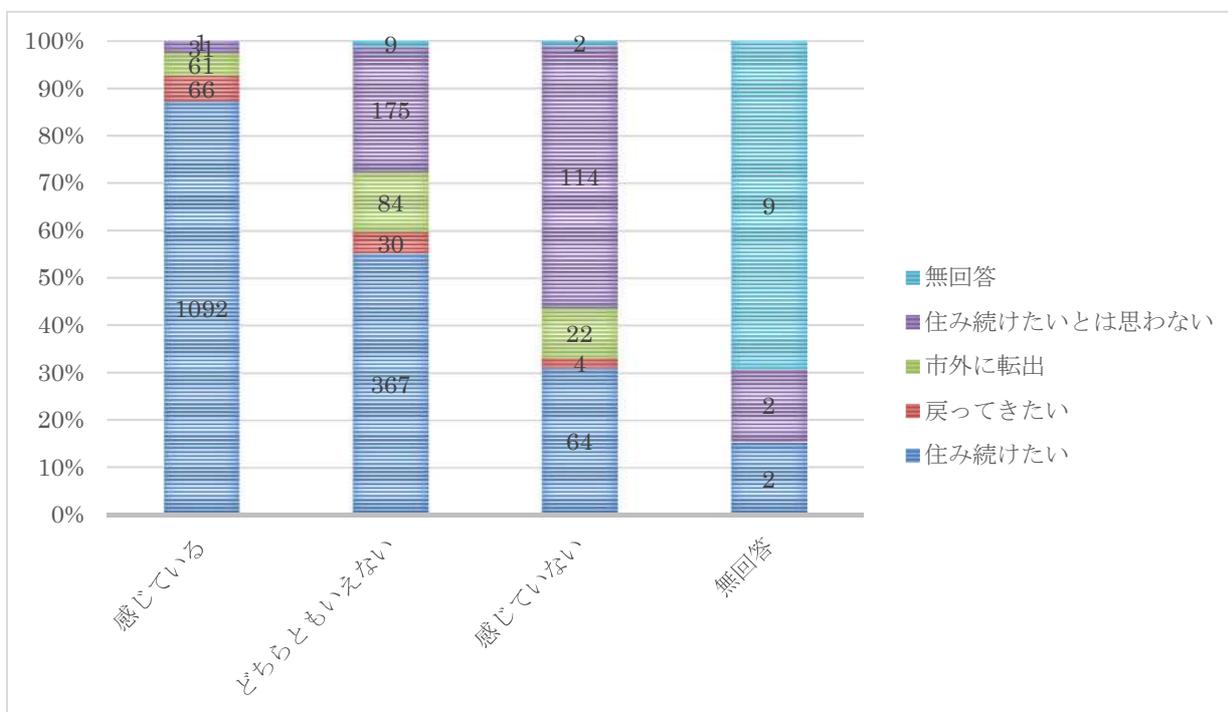
### 3) 居留意向×コミュニティ

居留意向については、コミュニティ別で見ると、大きな差がない。



### 4) 居留意向×愛郷心

大野城市に「住み続けたいとは思わない」割合は、大野城市をふるさととして「感じていない」が最も多い。



5) 居留意向×行政サービスのあり方

大野城市に「住み続けたいとは思わない」割合は、行政サービスのあり方について、「行政サービス縮小」が最も多い。



### 3 総合分析

#### 1) 愛郷心

愛郷心は居住年数に比例して増加する傾向にあり、このことは、各年代における愛郷心が、転入・転出の多い30代が最も低いことから理解できる。

愛郷心が高い市民は、市の施策に対して、全体的な傾向に特出したものは見られないが、総じて満足度は高く、行政サービスの考え方について、市民の金銭的又は人的負担により、行政サービスを継続していくことを望む割合が高い。

このことから、愛郷心は長い期間をかけながら、幅広い施策を通して形成されるものと理解できる。

#### 2) 居留意向

居留意向が低い市民は、市の施策に対する満足度が低い傾向にある。居留意向を高めていくためには、市民満足度の向上が必要である。

また、愛郷心と同様に、居留意向が高い市民は、行政サービスの考え方について、市民の金銭的又は人的負担により、行政サービスを継続していくことを望む割合が高い。

#### 3) まとめ

将来的に持続可能な行政サービスを提供する体制を構築していくためには、市民満足度を向上させる取組を通して、居留意向を高め、大野城市に住み続けたいと思う市民を増やすとともに、長い期間をかけて愛郷心を育んでいく必要がある。

## V 前回アンケートとの比較

第6次大野城市総合計画前期基本計画策定時に実施（平成29年7月に実施）した市民満足度アンケートと今回のアンケート結果を比較するもの。

※前回から、0.1以上の差を「↑」、-0.09～0.09までの差を「→」、-0.1以下の差を「↓」で標記

※今回のアンケートから追加した設問で比較対象がない取組は「-」で標記

※優先度は、今回アンケートからの設問のため比較対象なし

### 1 地域づくり・自治体経営

1) コミュニティ活動	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
共働のまちづくりの仕組みづくり	3.02	2.99	→	3.66	4.10	↓	3.48
共働のまちづくりの啓発	2.98	2.99	→	3.36	3.94	↓	3.30
自助のための支援体制の充実	2.86	2.80	→	3.35	3.83	↓	3.28
地域活動等に対する支援の充実	3.31	3.11	↑	3.35	3.91	↓	3.30
市民の公益活動を支える仕組みづくり	2.87	3.03	↓	3.34	3.95	↓	3.25
市民参加によるイベントの実施	3.63	3.41	↑	3.52	3.76	↓	3.39
地域活動拠点の整備・機能強化	3.40	3.24	↑	3.69	4.16	↓	3.58
行政センターと地域の連携	3.25	3.22	→	3.55	4.01	↓	3.48

2) 産業の振興	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
商店街の振興	2.89	2.90	→	3.51	4.10	↓	3.46
中小企業の経営安定化	2.88	2.89	→	3.12	3.77	↓	3.08
商工業の振興	2.74	2.77	→	3.28	3.87	↓	3.19
農地の保全と活用	2.95	3.09	↓	3.20	3.71	↓	3.17
地元農産物の消費促進	3.14	3.08	→	3.57	4.10	↓	3.55
商品開発と普及	2.93	2.79	↑	3.24	3.81	↓	3.16
食文化の継承	3.00	3.15	↓	3.24	3.85	↓	3.16

3) まちの魅力向上と発信	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
地域資源を活用したまちの魅力向上	3.25	3.29	→	3.43	4.00	↓	3.32
観光の振興	3.01	2.93	→	3.14	3.87	↓	3.20
ふるさと納税寄附金の活用	2.64	2.82	↓	3.36	3.47	↓	3.29
情報媒体とマスコミを活用した魅力発信	2.83	2.89	→	3.31	3.80	↓	3.23

4) ふるさと意識・文化財	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
文化財の保存	2.95	3.39	↓	3.12	4.05	↓	3.00
文化財の活用	3.29	3.23	→	3.37	3.86	↓	3.24
ふるさと意識の醸成	3.17	-	-	3.35	-	-	3.27
文化の継承	3.11	3.24	↓	3.24	3.66	↓	3.17

5) 芸術文化	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
生涯学習の環境整備と情報提供	3.07	2.97	↑	3.50	4.08	↓	3.40
芸術文化活動の推進	3.29	3.44	↓	3.32	3.86	↓	3.25
芸術文化活動の情報発信	3.26	3.32	→	3.29	3.69	↓	3.21
芸術文化振興イベントへの支援	3.14	3.18	→	3.23	3.56	↓	3.14
外国人が暮らしやすい環境づくり	3.05	2.85	↑	3.37	3.71	↓	3.31
国際交流の機会提供	2.80	2.79	→	3.22	3.64	↓	3.16

6) 人権・男女共同参画	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
人権教育・啓発	2.99	3.12	↓	3.59	4.12	↓	3.57
男女共同参画の啓発	2.98	3.09	↓	3.47	3.82	↓	3.43
女性リーダーの育成	2.86	2.95	→	3.48	3.69	↓	3.42
男女共同参画活動団体への支援	2.96	2.99	→	3.31	3.66	↓	3.27
DV防止	2.96	2.91	→	3.76	4.18	↓	3.73

7) 自治体経営	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
行政評価を踏まえた改善	2.91	2.97	→	3.57	3.96	↓	3.50
市役所組織の見直し	2.89	2.97	→	3.74	4.05	↓	3.68
自治体間連携・交流	2.93	3.03	↓	3.48	3.84	↓	3.42
職員の能力開発及び資質向上	3.01	2.91	→	3.57	4.13	↓	3.56
健全な財政運営	3.11	-	-	3.97	-	-	3.91
入札や契約手続の公正性等の確保	2.96	2.93	→	3.65	4.06	↓	3.58
適正かつ公平な課税の実施	2.90	-	-	3.85	-	-	3.83

8) デジタル活用	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
行政手続き等のオンライン化	2.91	3.19	↓	3.57	3.98	↓	3.56
行政サービスのデジタル化	2.89	-	-	3.74	-	-	3.68

9) 情報公開・市民参画	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
行政情報の公開と個人情報の保護	3.13	3.02	↑	3.86	4.03	↓	3.79
市民が市政に関わる機会の充実	3.09	2.96	↑	3.35	3.62	↓	3.29
選挙に対する関心や理解向上ための啓発	2.84	2.82	→	3.48	3.77	↓	3.41
市議会からの情報提供	2.84	2.91	→	3.34	4.01	↓	3.28
議場等設備の充実	2.99	3.07	→	2.96	3.13	↓	2.93

10) 公共施設管理	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
効率的な公共施設の運営や維持管理	3.00	2.94	→	3.52	3.70	↓	3.46
公共施設等の長寿命化と事業費の平準化	2.92	2.94	→	3.78	4.14	↓	3.76
公共施設の適正配置	2.97	-	-	3.46	-	-	3.40

11) 窓口サービス	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
窓口サービスの充実	3.31	-	-	3.78	-	-	3.78
納入窓口の充実	3.29	3.56	↓	3.69	3.99	↓	3.66

## 2 子育て・教育

1) 子育て支援	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
妊娠・子育てに関する相談体制の充実	3.28	3.12	↑	3.95	4.18	↓	3.83
地域と連携した子育て支援	3.36	3.30	→	3.69	3.93	↓	3.63
子育て支援施設の充実	3.16	3.18	→	3.61	3.94	↓	3.57
子育ての経済的支援	3.00	3.02	→	4.17	4.35	↓	4.13
待機児童の解消	2.98	2.69	↑	3.95	4.42	↓	3.91
児童虐待などに関する相談体制の充実	3.06	2.85	↑	3.99	4.50	↓	3.96
子育て支援の情報提供の充実	3.07	3.03	→	3.76	4.12	↓	3.68

2) 子ども・若者の健全育成	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
子どもの生活や学習環境の提供	3.04	2.94	↑	3.61	3.95	↓	3.57
子どもの食育の推進	3.04	3.10	→	3.72	4.24	↓	3.66
青少年の地域参加等への支援	3.03	3.11	→	3.33	3.75	↓	3.24
青少年の非行対策やモラル向上	3.21	3.13	→	3.61	4.26	↓	3.53

3) 教育政策	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
就学困難な子どもへの支援	2.80	2.92	↓	3.94	4.36	↓	3.90
学校規模の適正化	2.82	2.95	↓	3.41	3.59	↓	3.37
学校施設の計画的改修	2.91	3.04	↓	3.45	3.88	↓	3.42

4) 学校教育	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
学力向上支援	2.99	2.92	→	3.81	4.30	↓	3.77
学校独自の教育活動	3.17	3.15	→	3.30	3.70	↓	3.23
外国語教育や国際理解教育	2.80	2.80	→	3.70	4.13	↓	3.68
いじめ対策	2.89	2.82	→	4.07	4.58	↓	4.04
不登校支援	2.72	2.82	↓	3.91	4.58	↓	3.85
インクルーシブ教育	2.94	2.96	→	3.70	4.21	↓	3.65
学校情報基盤の整備	3.01	2.81	↑	3.72	3.77	→	3.65
学校情報の発信	3.13	3.17	→	3.43	3.65	↓	3.39
子どもたちの安全の確保	3.22	3.31	→	4.00	4.56	↓	3.91

5) 子ども・若者の健全育成	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
放課後の児童の居場所づくり	3.29	3.09	↑	3.80	4.37	↓	3.72
開かれた学校づくり	3.12	3.31	↓	3.48	4.40	↓	3.45
家庭の教育力向上	3.03	3.12	→	2.98	3.54	↓	2.91
子どもの読書環境の充実	3.33	3.36	→	3.50	3.99	↓	3.38

6) スポーツ	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
生涯スポーツの推進	3.01	3.05	→	3.26	3.71	↓	3.20
スポーツ団体等への支援	3.02	3.11	↓	3.26	3.65	↓	3.19
スポーツ施設の計画的な改修	3.06	3.04	→	3.37	3.68	↓	3.30
市民参加による競技大会の実施	3.29	3.33	→	2.98	3.34	↓	2.90

### 3 健康長寿・福祉

1) 健康	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
各種健診の周知啓発や実施	3.39	3.39	→	3.83	4.44	↓	3.71
こころの健康づくりの推進	2.83	2.91	→	3.36	3.96	↓	3.24
健康的食生活の情報提供や支援	3.02	2.94	→	3.21	3.78	↓	3.14
生活習慣改善の保健指導や相談	3.09	3.12	→	3.22	3.94	↓	3.13
生活習慣病重症化予防の保健指導	3.01	3.08	→	3.21	3.95	↓	3.16
医療費適正化の啓発	3.05	3.10	→	3.18	3.75	↓	3.14

2) 高齢者支援	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
高齢者の学びの場や機会の充実	3.18	2.96	↑	3.28	3.89	↓	3.17
高齢者の就労機会等の充実	3.00	2.77	↑	3.36	4.09	↓	3.29
高齢者の見守り体制の充実	3.04	2.83	↑	3.54	4.37	↓	3.49
在宅医療の充実	2.96	2.79	↑	3.56	4.34	↓	3.51
高齢者の食生活支援	2.88	2.79	→	3.33	4.02	↓	3.26

3) 介護予防・介護保険	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
介護予防の充実	3.07	2.88	↑	3.35	4.15	↓	3.28
認知症対策	2.88	2.80	→	3.44	4.30	↓	3.39
高齢者施設の整備	2.86	-	-	3.39	-	-	3.35
介護保険事業の適正運営	2.88	-	-	3.44	-	-	3.40

4) 障がい・地域福祉	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
障がい者の生活支援	2.96	2.95	→	3.61	4.47	↓	3.57
障がい者の社会参加支援	2.91	2.86	→	3.53	4.33	↓	3.50
障がい者の就労支援	2.81	2.84	→	3.53	4.38	↓	3.49
障がい者福祉に対する普及啓発	2.94	2.79	↑	3.39	4.26	↓	3.34
福祉活動ボランティアの促進	2.89	2.92	→	3.29	4.11	↓	3.24
生活困窮者の自立支援	2.90	2.83	→	3.32	4.21	↓	3.29

#### 4 都市環境・安全安心

1) 都市計画	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
まちづくりの規制と適切運用	3.22	3.02	↑	3.70	3.92	↓	3.51
個性や魅力を生み出す地区形成	3.11	2.98	↑	3.46	3.53	→	3.32
都市基盤の計画的整備	3.29	3.23	→	3.97	4.24	↓	3.88
公共交通空白地の解消	3.07	2.90	↑	3.73	4.16	↓	3.65
中心市街地の活性化	3.35	3.49	↓	3.96	4.38	↓	3.86
自転車利用者への環境整備	3.03	2.71	↑	3.61	4.00	↓	3.52
バリアフリーに配慮した公共施設の整備	3.13	3.05	→	3.80	4.12	↓	3.70

2) 道路・公園管理	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
幹線道路の整備	3.05	3.02	→	3.83	3.99	↓	3.76
橋や道路等の計画的な修繕・補修	3.09	3.06	→	3.59	4.06	↓	3.58
道路や公園の省エネ化	3.11	3.19	→	3.40	4.01	↓	3.35
地域ニーズによる公園整備	3.02	2.94	→	3.45	3.71	↓	3.35
都市における緑の保全と緑化	3.21	3.29	→	3.21	3.57	↓	3.09
緑化スペースの整備と適正な維持管理	3.13	3.14	→	3.27	3.74	↓	3.19

3) 循環型社会	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
省エネ・エコ行動の推進	3.12	3.12	→	3.49	3.82	↓	3.48
市民参加型の環境美化活動	3.23	3.31	→	3.15	3.69	↓	3.13
ごみ減量対策	3.21	3.39	↓	3.46	3.89	↓	3.41
資源リサイクル	3.45	3.57	↓	3.68	4.14	↓	3.61
ごみ処理施設の計画的施設整備	3.40	3.41	→	3.61	4.11	↓	3.54
自然環境の保全・再生	3.18	3.28	↓	3.52	4.05	↓	3.44
二酸化炭素削減の推進	3.02	-	-	3.37	-	-	3.31
脱炭素促進の啓発活動	2.92	-	-	3.26	-	-	3.20

4) 上下水道	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
健全な上下水道事業の運営	3.42	3.43	→	3.82	4.35	↓	3.73
水源確保	3.34	3.20	↑	4.05	4.54	↓	3.98
安全な水の供給	3.64	3.70	→	4.20	4.62	↓	4.16
浄水場や管路などの計画的な更新	3.08	3.18	↓	3.74	4.24	↓	3.69
水路の計画的な整備	3.04	3.04	→	3.73	4.29	↓	3.69
災害に強い上下水道施設の推進	3.20	3.13	→	4.02	4.33	↓	3.97
整備水準を超える降雨対策	3.19	3.07	↑	3.98	4.54	↓	3.91
適正な上下水道料金の維持	2.91	2.85	→	3.83	4.21	↓	3.75
上下水道に関する情報発信	2.92	3.08	↓	3.10	3.60	↓	3.05

5) 生活安全	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
防災・防犯機関等との連携	3.25	3.25	→	3.79	-	-	3.73
警察と連携した総合的な防犯対策	3.12	2.96	↑	3.96	4.37	↓	3.92
木造戸建住宅の耐震化促進	2.89	2.83	→	3.43	3.96	↓	3.34
空き家対策	2.85	2.83	→	3.64	4.13	↓	3.50
防犯意識向上の啓発	3.02	3.07	→	3.64	4.07	↓	3.57
交通安全対策	3.00	2.91	→	3.86	4.42	↓	3.87
飲酒運転撲滅の啓発	3.13	3.02	↑	3.86	4.44	↓	3.74
消費者相談	3.60	3.06	↑	3.41	3.95	↓	3.34
消費者トラブルの未然防止	3.04	3.02	→	3.31	3.86	↓	3.26

6) 危機管理	満足度	前回	前回比	重要度	前回	前回比	優先度
防災意識向上の啓発	3.21	3.07	↑	3.54	4.07	↓	3.48
公共施設の避難所機能強化	3.11	3.09	→	3.84	4.41	↓	3.78
避難行動要支援者への支援	3.10	2.97	↑	3.80	4.29	↓	3.76
災害時相互応援協定の締結	3.04	3.07	→	3.65	4.18	↓	3.55
被災地への支援活動	3.23	3.43	↓	3.65	4.13	↓	3.58
感染症等の蔓延防止	3.40	3.06	↑	3.73	4.19	↓	3.70
消防防災体制の充実	3.17	3.19	→	3.55	4.10	↓	3.48
消防団等への支援	3.07	3.04	→	3.12	3.62	↓	3.09